

2003年度（2004年3月期）

業績概要



私たちのすべての企業活動が、お客様に最高の感動を提供するためのものであること。
私たちのすべての仕事がお客様に喜びと満足を体験していただくためのものであること。
それがビクター・JVCの目指している姿です。
そのために私たちビクター・JVCの一人ひとりが、お客様のために何ができるのかを考えて行動する。
The Perfect Experienceは、ビクター・JVCがお客様に対して結んだ約束です。

The Perfect Experience

お客様に最高の感動と100%の満足を



2004年4月28日

日本ビクター株式会社



Victor・JVC

The Perfect Experience

1. 営業利益2年連続増益確保

02年度比13%増益
民生事業増益確保
ソフト・メディア事業好調に推移

2. フリーキャッシュ・フロー3年連続200億円超

(01年度:225億円・02年度:233億円・03年度249億円)
Net資金大幅改善(03/3 Δ 521億円→04/3 Δ 312億円 +209億円)

3. 棚卸資産の増加

金額・日数ともに前年比増加
(金額:1,299億円 +186億円・日数:51日 +9日)

2003年度(2004年3月期) 業績概要(連結)

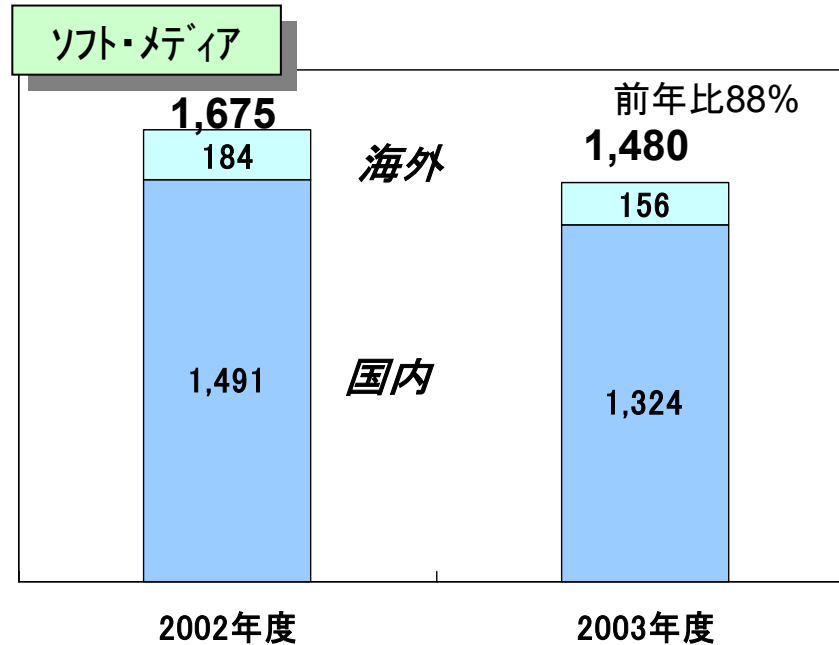
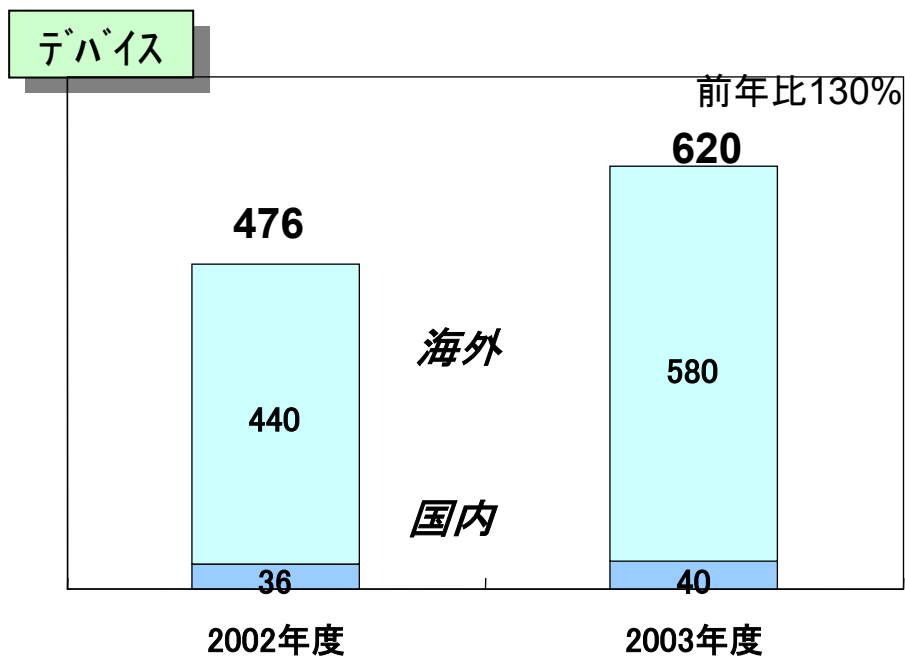
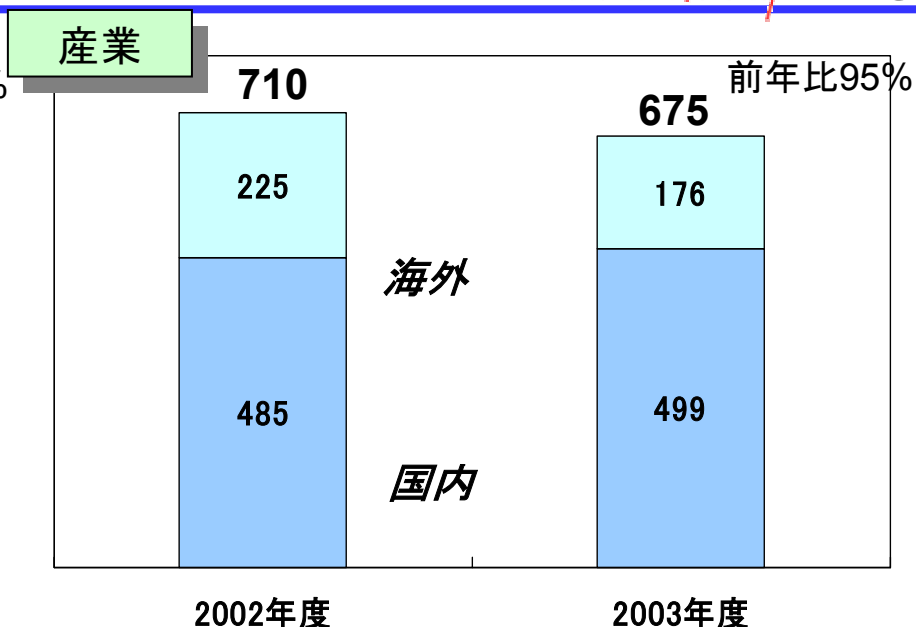
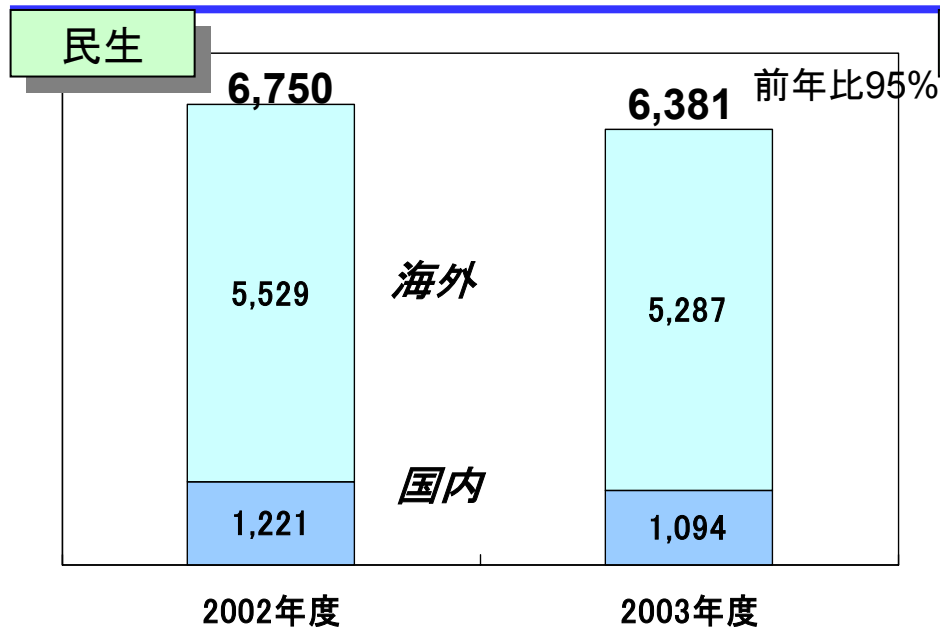
(億円)

	実 績	公表	前年実績	公表差	前年差
売 上 高	9,220	10,000	9,676	92%	95%
	2.7%	2.5%	2.3%	101%	113%
営 業 利 益	252	250	223	2	29
	2.2%	2.0%	1.8%	101%	117%
経 常 利 益	202	200	173	2	29
	1.7%	1.1%	0.7%	142%	246%
当 期 利 益	156	110	63	46	93

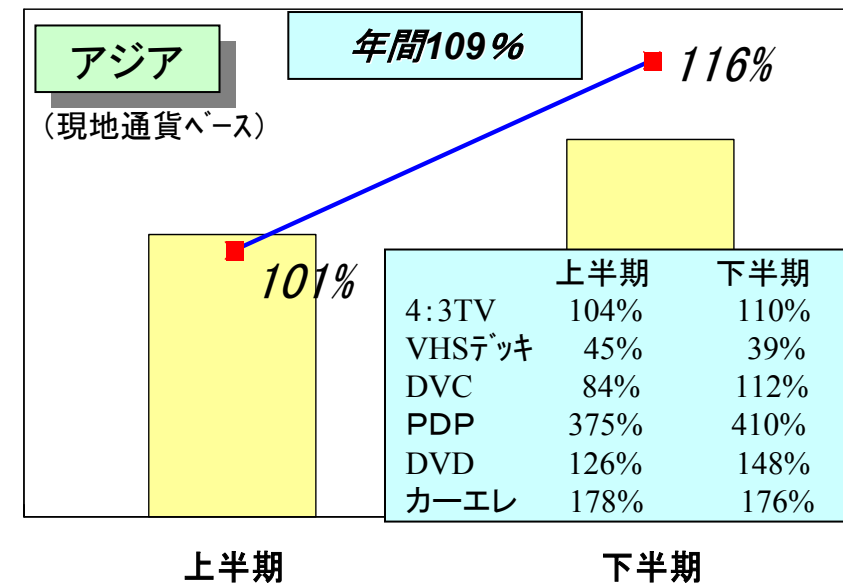
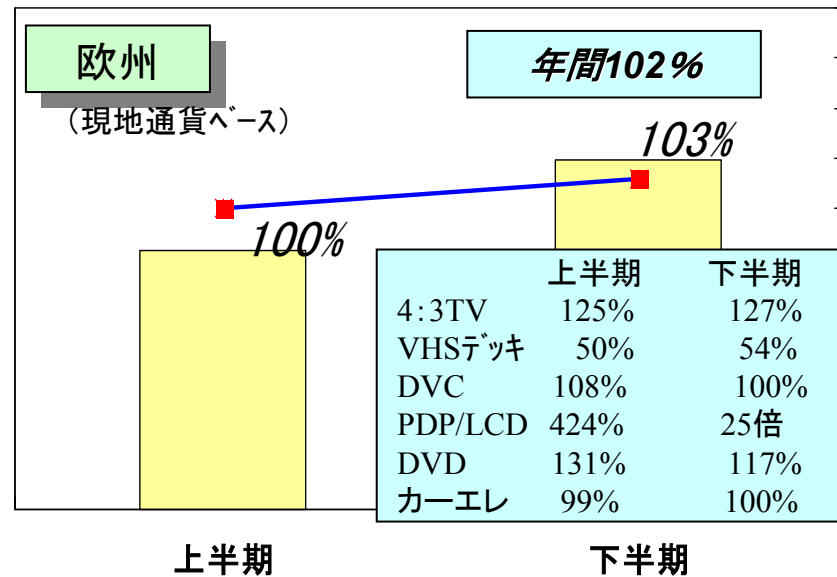
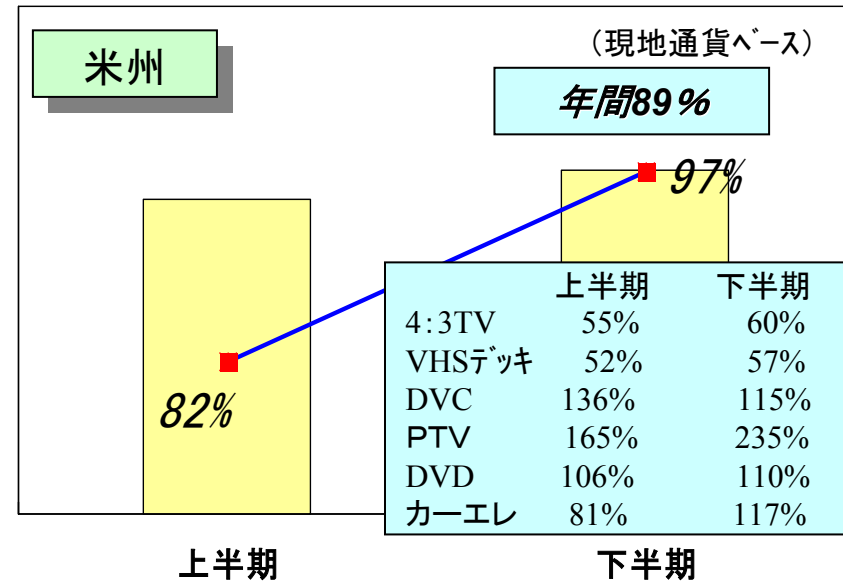
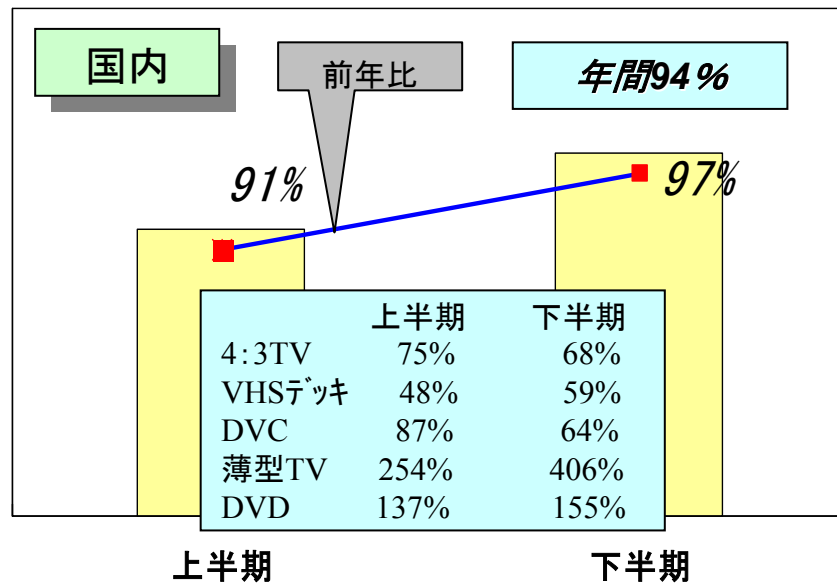
【参考:単独】

	実 績	公表	前年実績	公表差	前年差
売 上 高	5,017	5,269	5,228	95%	96%
	1.6%	1.7%	1.4%	88%	108%
営 業 利 益	79	90	73	▲ 11	6
	1.4%	1.7%	1.1%	79%	119%
経 常 利 益	69	87	58	▲ 18	11
	1.4%	1.2%	0.4%	111%	329%
当 期 利 益	72	65	22	7	50

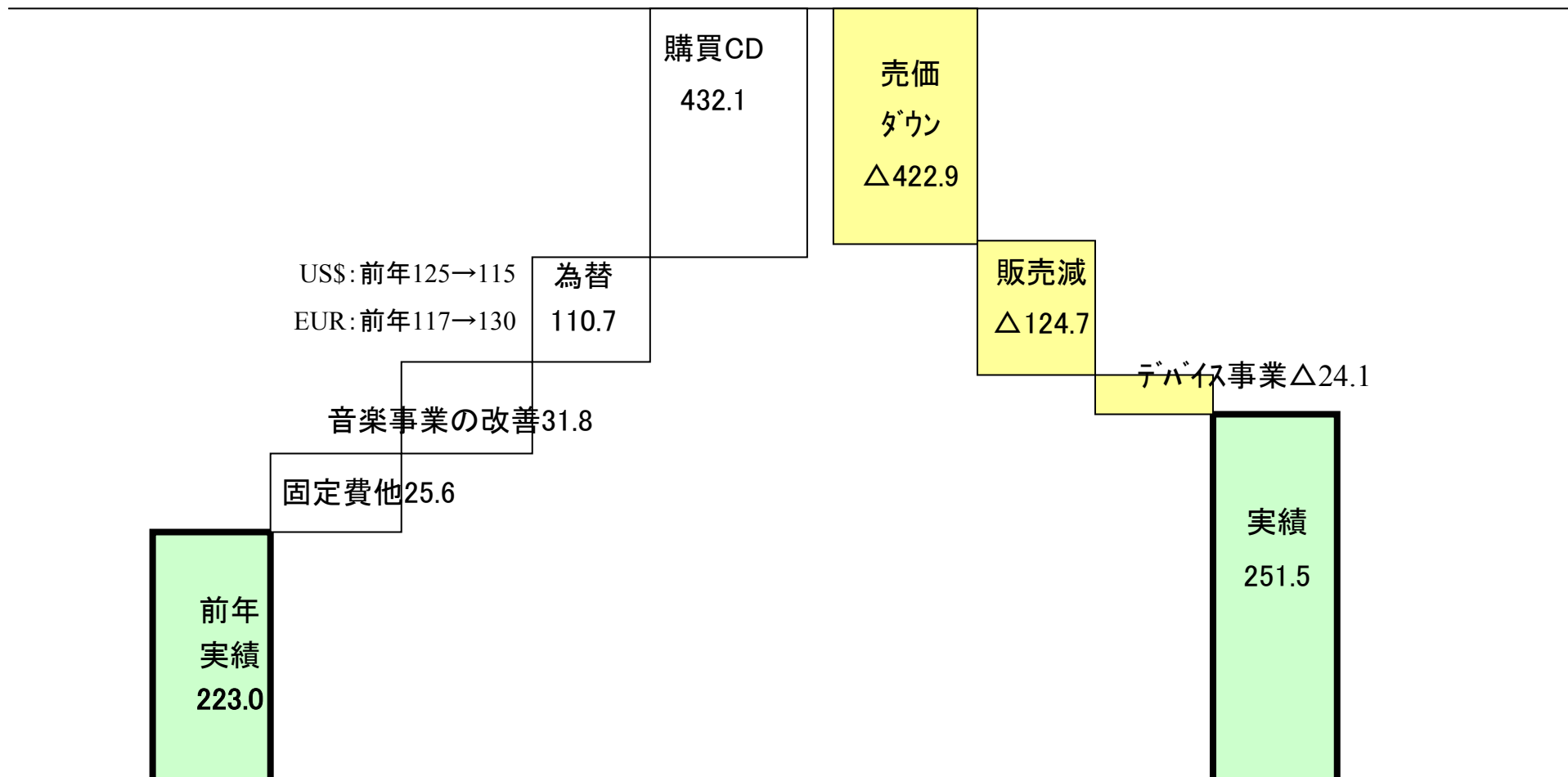
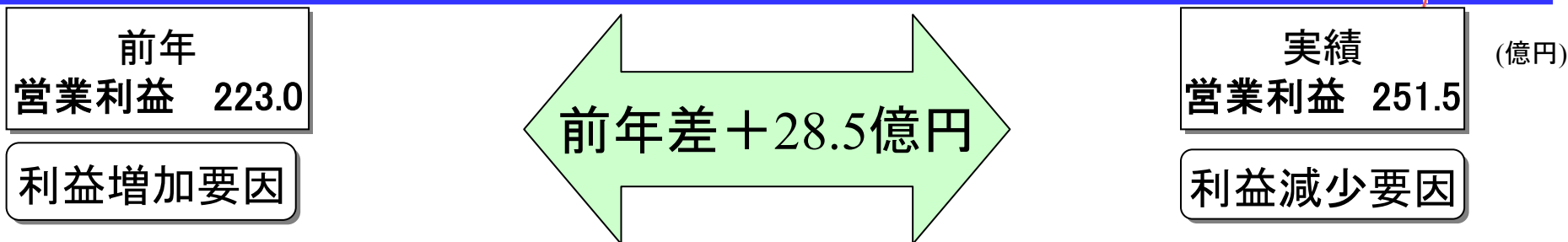
2003年度 販売状況



2003年度 民生の販売状況(前年伸長)



2003年度 損益増減分析(前年差)



2003年度分野別売上高・営業利益

(億円)

	売上高					営業利益				
	実績	公表	前年	公表比	前年比	実績	公表	前年	公表差	前年差
民生	6,381	6,900	6,750	92%	95%	4.0%	3.3%	3.7%	28	102%
産業	675	816	710	83%	95%	-2.6%	-0.6%	-5.2%	▲ 13	-
デバイス	620	700	476	89%	130%	-5.0%	-2.9%	-1.5%	▲ 11	-
ソフト・メディア	1,480	1,522	1,675	97%	88%	3.1%	3.0%	0.8%	2	360%

特別損益

	実績
不動産売却	13.2
事業構造改革	▲ 38.2
特別退職金	▲ 4.5
過去分特許	▲ 27.4
その他	▲ 3.9
合計	▲ 60.8

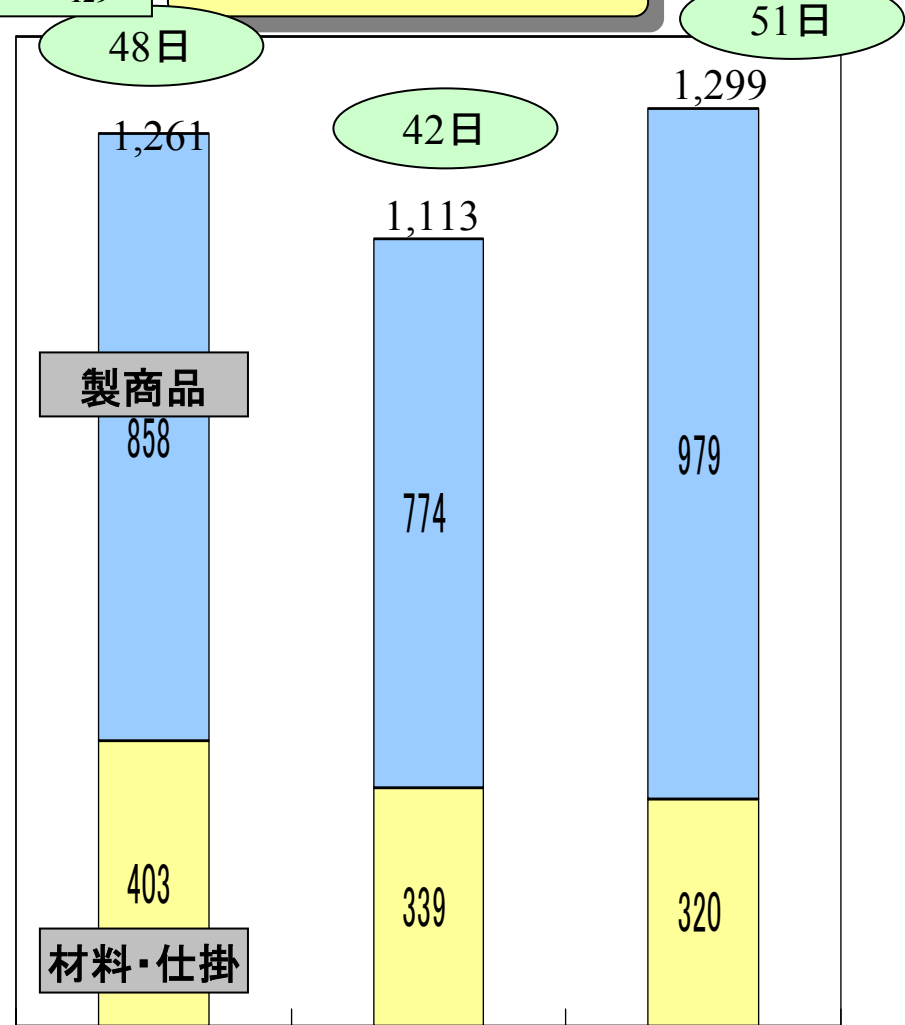
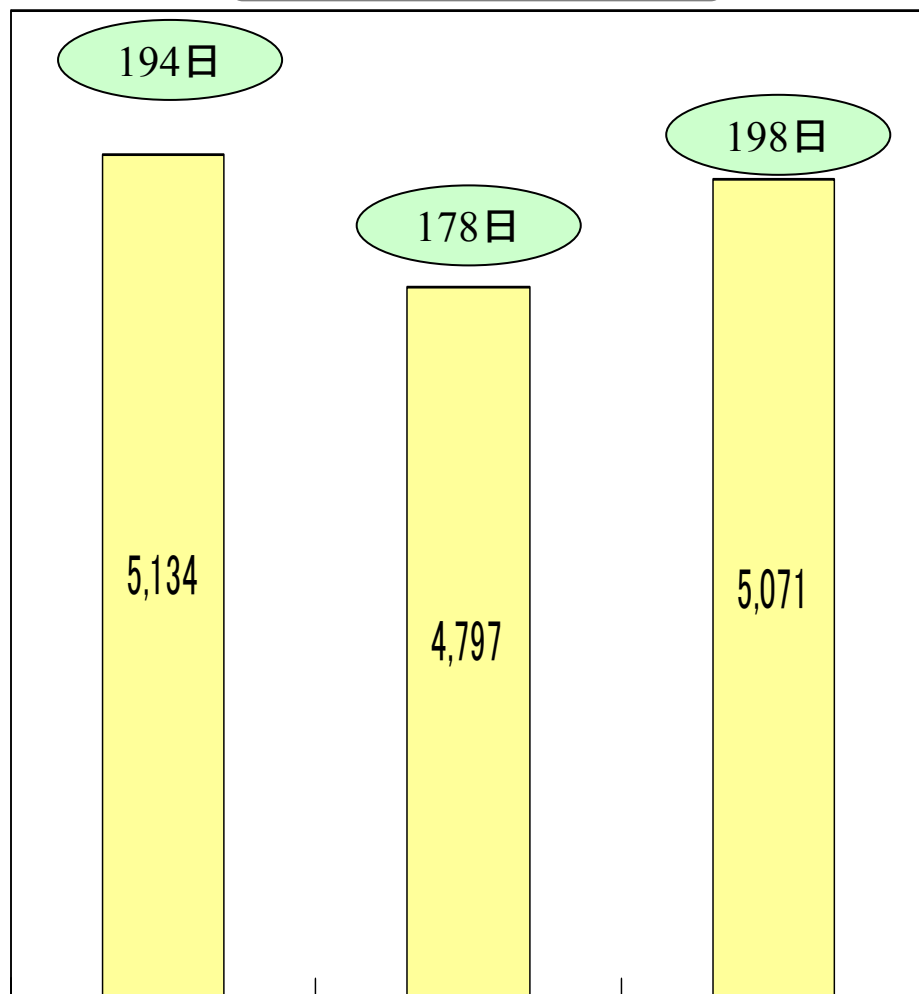
総資産の状況

総資産

為替レート	2003/3	2004/3
US\$	120	106
EUR	130	129

棚卸資産

(億円)



2002年3月末

2003年3月末

2004年3月末

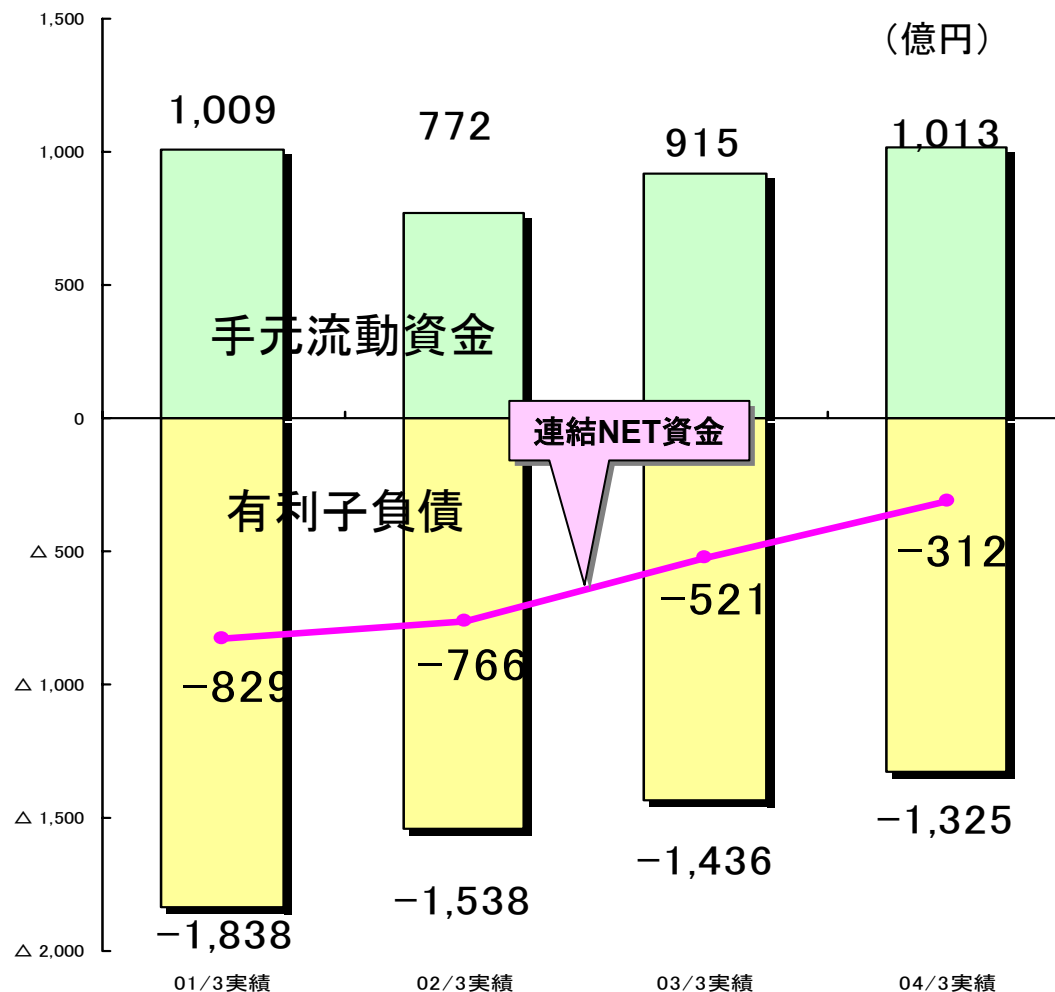
2002年3月末

2003年3月末

2004年3月末

連結C/F計算書

税引前利益	141
減価償却費	215
運転資金	241
棚卸資産	▲ 235
その他	45
営業C/F	407
固定資産	▲ 211
その他	53
投資C/F	▲ 158
フリーキャッシュフロー	249
財務C/F	▲ 94
その他調整	▲ 17
現金増減	138
期首残高	834
期末残高	972



【金型を除く有形固定資産】	(億円)	
	2002年度	2003年度
設備投資	130	143
減価償却費	151	125

2004年度 業績予想

<連結>

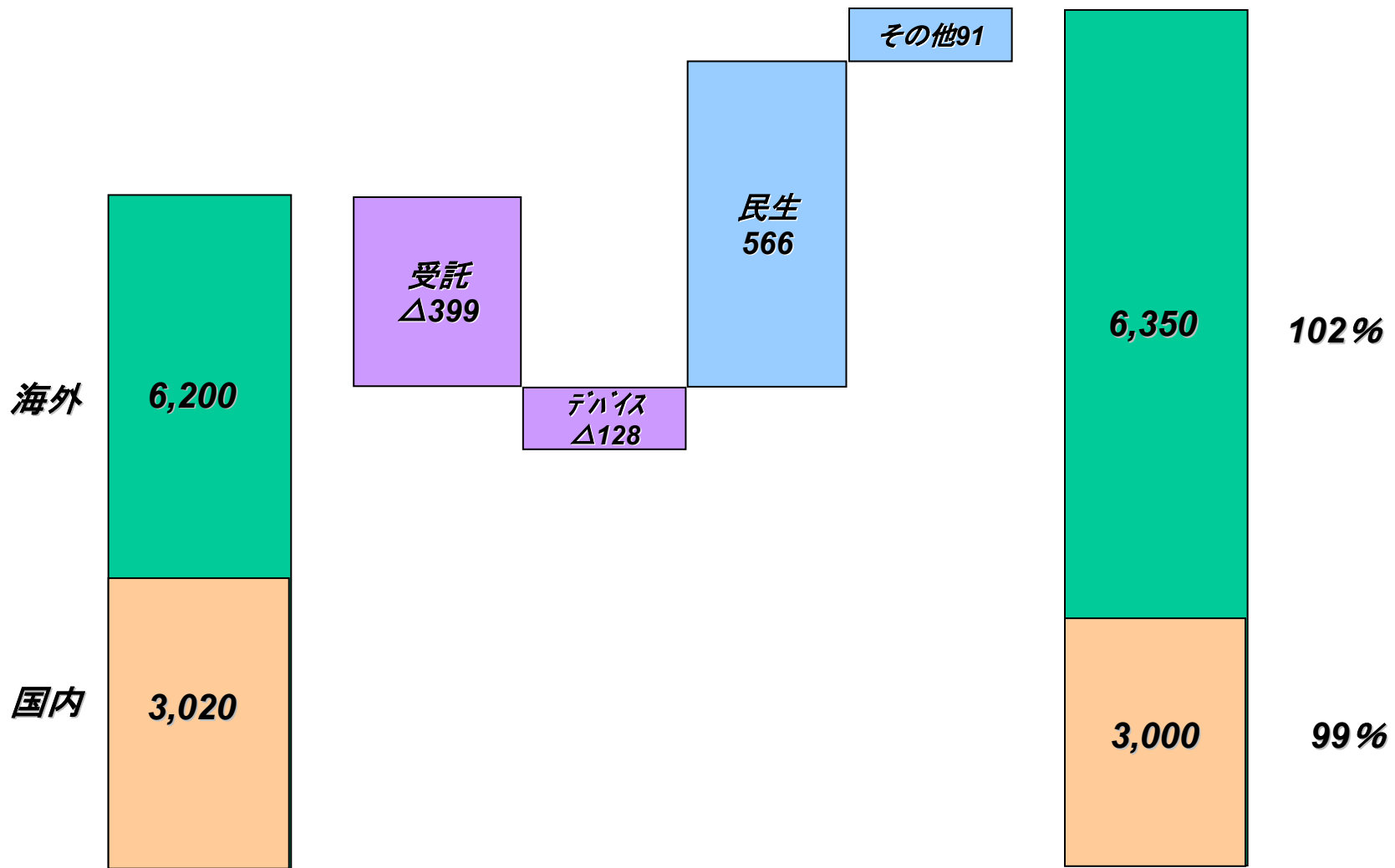
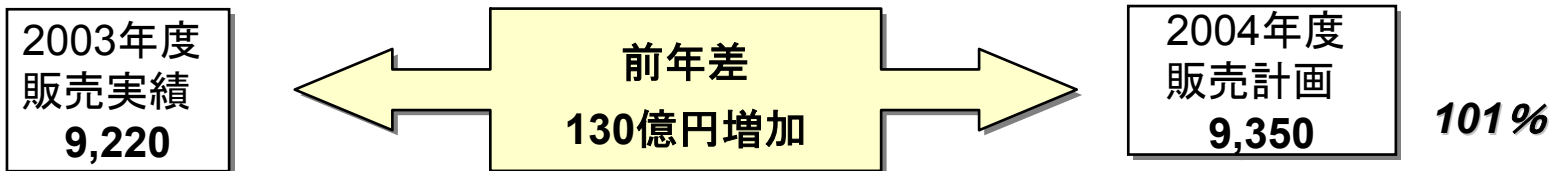
(億円)

	計	画	前年実績	前年差
売上高		9,350	9,220	101%
	3.0%		2.7%	111%
営業利益		280	252	28
	2.5%		2.2%	114%
経常利益		230	202	28
	0.9%		1.7%	51%
当期利益		80	156	▲ 76

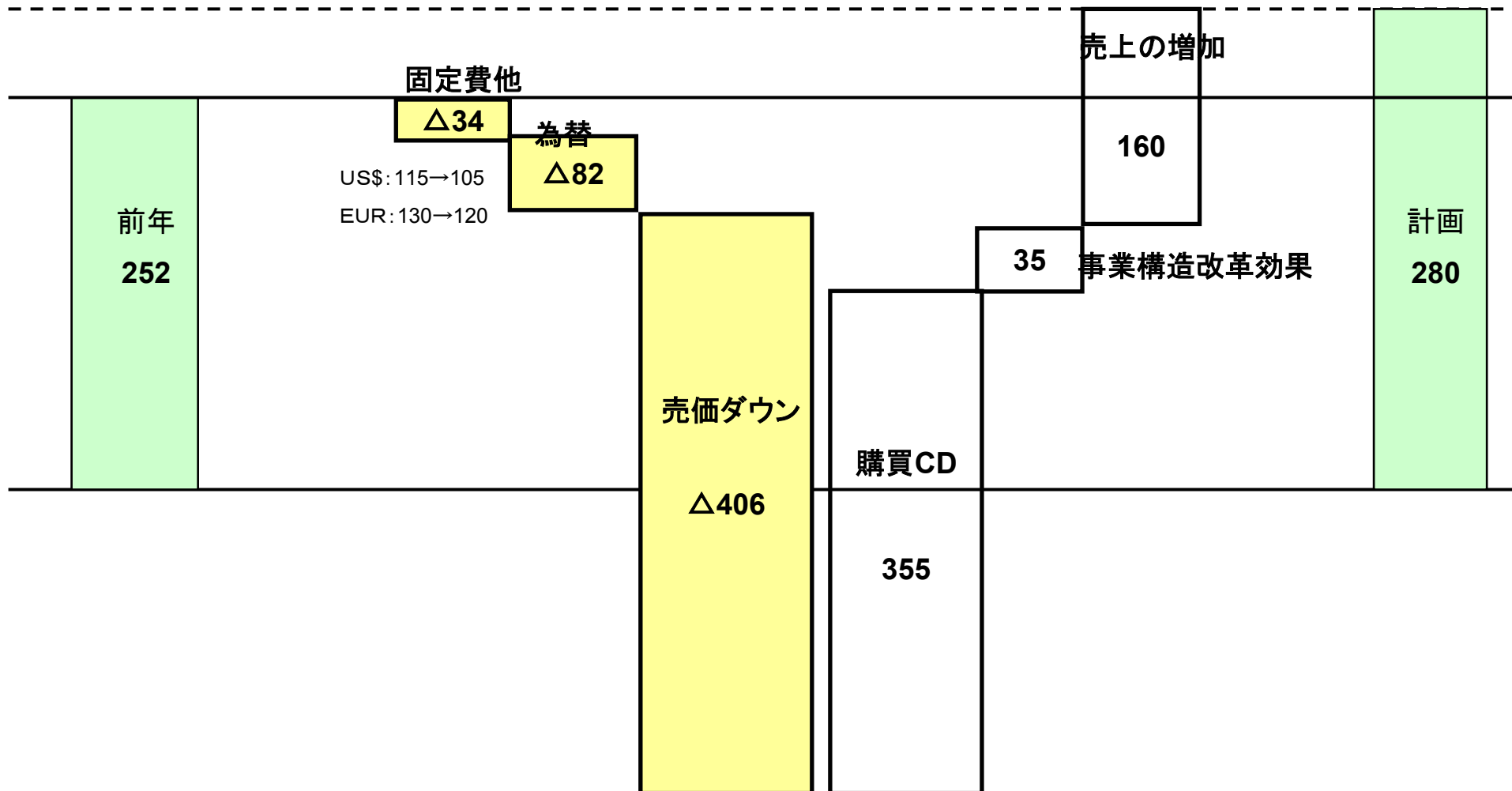
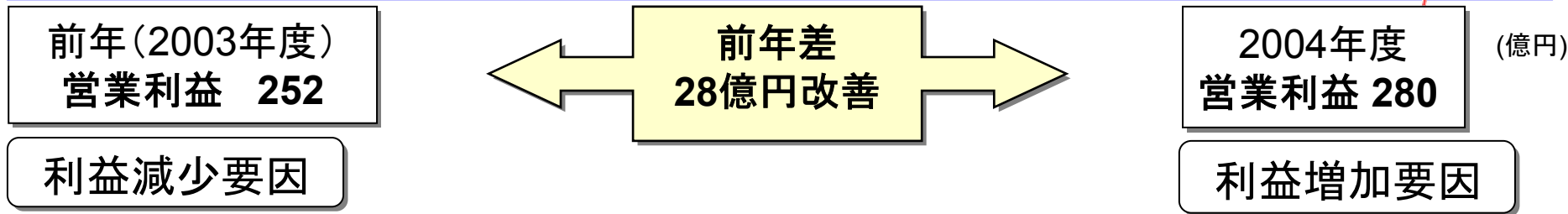
<上半期>

	計	画	前年実績	前年差
売上高		4,320	4,627	93%
	2.4%		2.2%	102%
営業利益		105	103	2
	1.9%		1.6%	116%
経常利益		84	73	11
	0.0%		0.8%	6%
当期利益		2	35	▲ 33

2004年度 販売状況

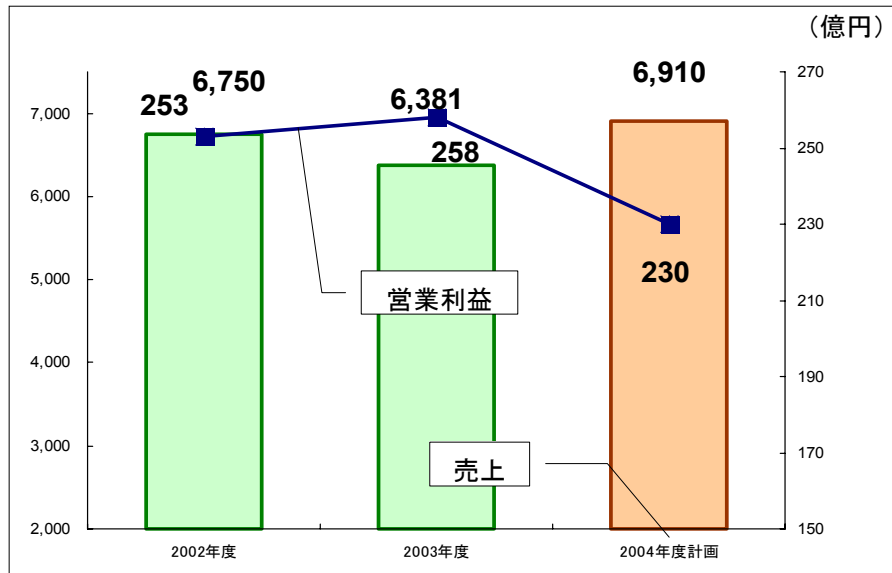


2004年度 損益増減分析(前年差)

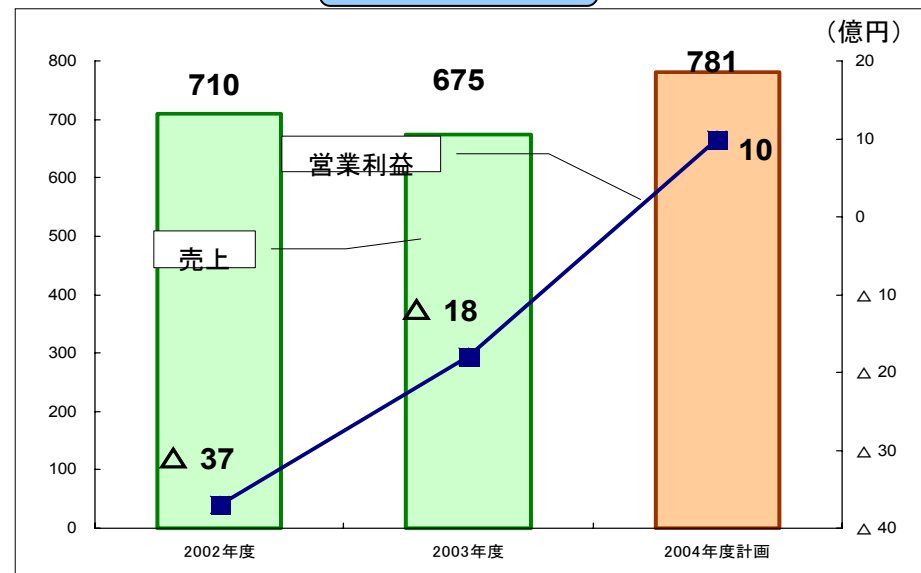


2004年度 セグメント別の状況

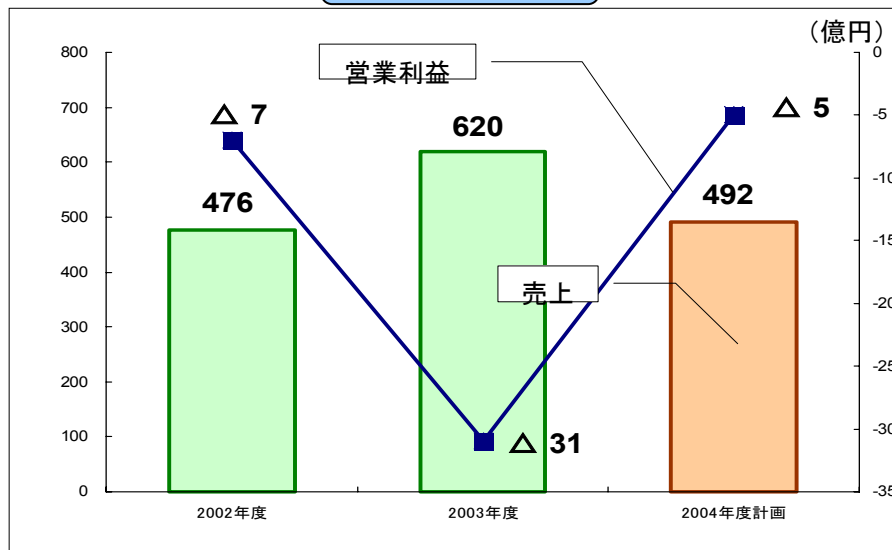
民生



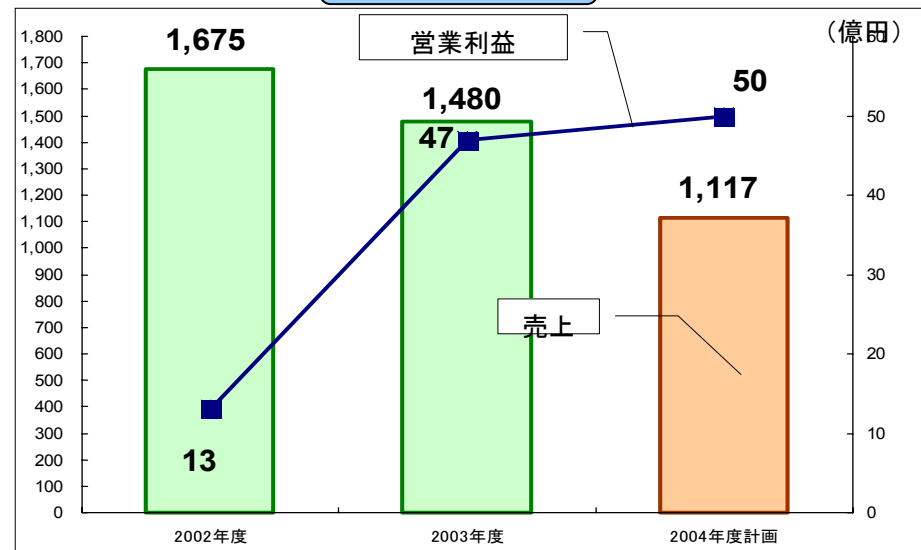
産業



デバイス



ソフト・メディア



【創生21計画での取り組み】

01年度

従業員の意識改革と財務体質の健全化

02年度

再生への意識改革と日々のオペレーション改革

03年度 経営・事業ビジョンの明確化と成長戦略の推進

- ・引き続き、再生への意識改革の徹底と
経営体質改革の推進を行なう
- ・5重点分野のOnly1商品でシェアアップとブランド価値向上
- ・増収増益基調を確保し、資金造出・BS改善を加速する

2003年度の取り組み・指標

2003年度の成果

原価創造

- ◇キーデバイス安定調達のためのキー・サプライヤー政策
- ◇02年度からの継続テーマの積極推進
 - ・設計VE活動
 - ・国内サプライヤー集約
 - ・中国部品開発・購買
- ◇グローバル購買コストダウン 371億

- ◇テクニカルコンタクトミーティング継続・強化(80回)
- ◇設計VE:開発購買体制とコスト情報共有強化
 - 国内サプライヤー集約:530→400社
 - 中国部品開発:上海ラボセンター設置
- ◇グローバル購買コストダウン 432億

ものづくり改革

- ◇設計プロセス改革(2年目)のさらなる推進
- ◇「ものづくり総本山化」プロジェクトの取り組み加速
- ◇量産化技術の強化

- ◇6ヶ月ものづくり適用商品の拡大
- ◇工程の確立した商品の生産海外移管を推進
- ◇変種変量ものづくりに向けての取り組み強化

物流改革

- ◇物流拠点の集約実行
 - ・米国:現状5拠点を04年度中に3拠点へ
 - ・欧州:プロ物流3拠点を1拠点に統合
 - ・国内:横浜地区分散倉庫9ヶ所を3ヶ所へ
- ◇民生ロジスティクス改革スタート

- ◇拠点集約は03年の目標を達成、集約拠点の本格稼働と更なる効率化へ
- ◇カンパニー内に専任チーム(4名)を設置し推進

SCM構築

- ◇民生SCM稼働による高回転経営
- 日程ターゲット: (03/ 5) 日本・アジア4工場スタート
- (03/ 9) 米・欧・アジア6工場

- ◇DVD、VHS-C、ディスプレイ(日米ア)導入済
- オーディオ、DVCに04年上期導入予定

主な03年度“Only1商品”



26インチ
液晶テレビ
LT-26LC4

※業界初の画面サイズ26V inch

※DET、オブリコンスピーカー搭載による高画質・高音質



マルチフォーマット対応
DVDレコーダー
DR-M1

※業界初DVD-RAM/-RW両方式にVRモードで対応

※独自の画像圧縮技術により長時間モードでも高画質



大ヒット
カムコーダー
GR-D200

※斬新なデザイン、カラーバリエーション

※育児雑誌とのタイアップにより顧客認知度向上



ウッドコンスピーカー搭載ミニコンポ
EX-A1

※業界初のウッドコンスピーカー搭載による、心に響く高音質

※顧客ターゲットを違いの解る大人に設定、

ミニコンのイメージを一新

2004年度のポイント

(単位: 億円)

	2003年度 実績	2004年度			
		上半期	下半期	年間	前年比/差
売上高	9,220	4,320	5,030	9,350	101%
営業利益	252	105	175	280	28
当期利益	156	2	78	80	▲ 76

淘汰・寡占が進む中で、
ビクター・JVCが
生き残るために
“躍進21計画” 初年度に
まずは増収に転じ
増益基調を堅持する

成長戦略を加速する！～エンタテインメント・ソリューションカンパニーへの挑戦

マーケット・インの思想を徹底し、AV商品(音楽と映像)を通じて
お客様に新しく、豊かな生活を提案する“Only1”の思想を貫く

構造改革を常態化する！～ハイパフォーマンス・グローバルカンパニーの深堀

開・生・販が三位一体となり、グローバルに、かつ一貫通貫に
つながることで、マーケットのニーズに素早く対応できる
高速回転経営を実現する

高精細
ディスプレイ

民生HD-ILAリアプロジェクター市場導入(7月)
フラットパネル(PDP/LCDライン拡充、世界展開)



デジタルHD
ストレージ

3in 1DVDレコーダー等、複合機で市場へ攻勢
自社ドライブ(光PU/メカ)搭載機投入と生産海外展開



ネットワーク
AVシステム

カーAV伸長・新規分野開拓(DVD/TBT/純正)
カムコーダー中高級機市場でのシェア拡大



部品事業

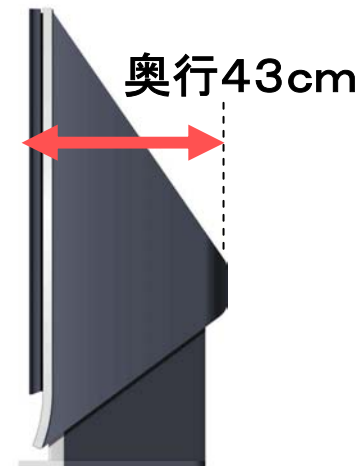
ハードディスク用流体軸受モーターの販売拡大
二波長光PUのDVDレコーダーへの展開



ソフト
メディア事業

DVCテープの販売拡大と、記録型DVDの高機能化
音楽ソフト事業の、権利・周辺ビジネスへの拡大





当社 米国発売予定モデル



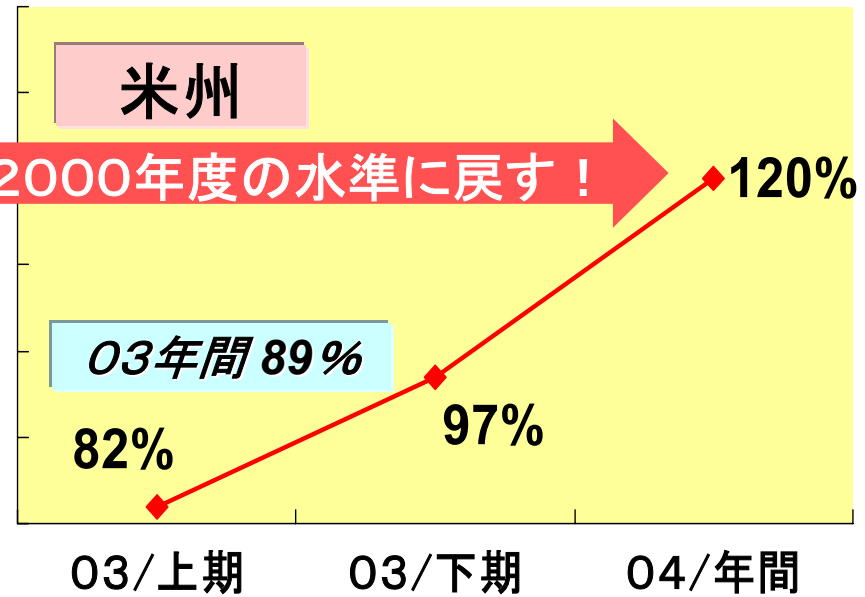
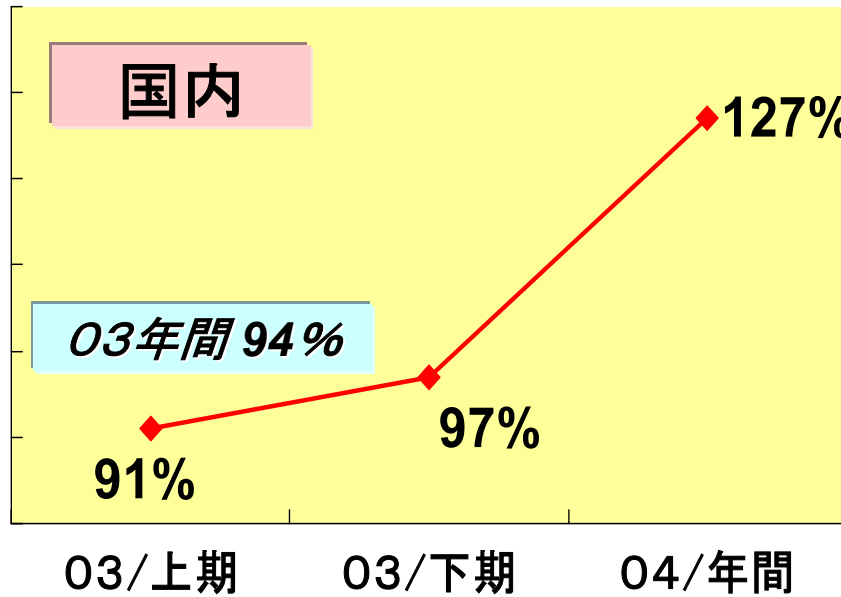
Powered by D-ILA

■ 52、61の2サイズで北米市場参入
■ 画質とデザインで差別化

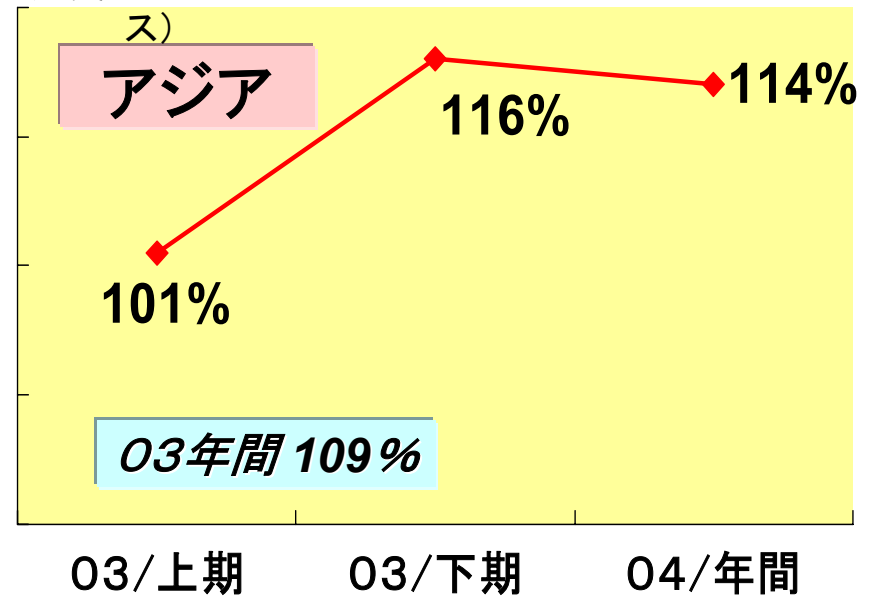
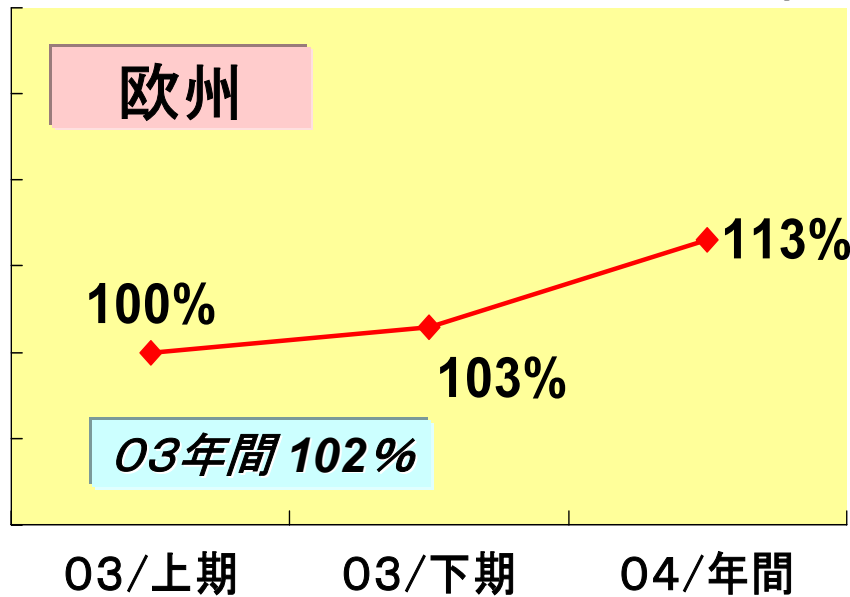
■ 商品特徴と機能

- ☆高輝度 500cd/m² (61W:業界最高)
- ☆高コントラスト 1000:1(業界最高ランク)
- ☆高精細 D.I.S.T. 720P
- ☆スタイリッシュなテーブルトップデザイン
 - ・奥行430mm
 - ・前面フレームレスイメージ

2004年度 民生販売の前年伸長



(海外は現地通貨ベース)



激変する環境下で、強化事業に経営資源を集中投下するために
拠点、人員配置の再編を含む事業基盤の再構築を加速する

選択

事業の見極めと構造改革を
加速する

偏向ヨーク事業の縮小

高密度多層基板事業の再構築

人員・拠点の再編

集中

自社のセットに付加価値を
寄与する基幹部品事業を強化

モーター/光PU事業への集中

高精細加工技術の蓄積

歩留り/稼働率に対するノウハウ